

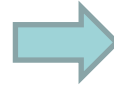
利用・用途・応用分野

肝細胞癌疾病の予測診断、肝癌に対する新規腫瘍マーカー

目的・課題

血清中のHMMタンパク質は、
新規HLH型転写制御分子で
あり、肝臓特異的な遺伝子発現
を調節していることが考えられ
ているが肝癌のスクリーニング
になるかは不明である。
肝癌との関わりを明確にする。

解決ポイント

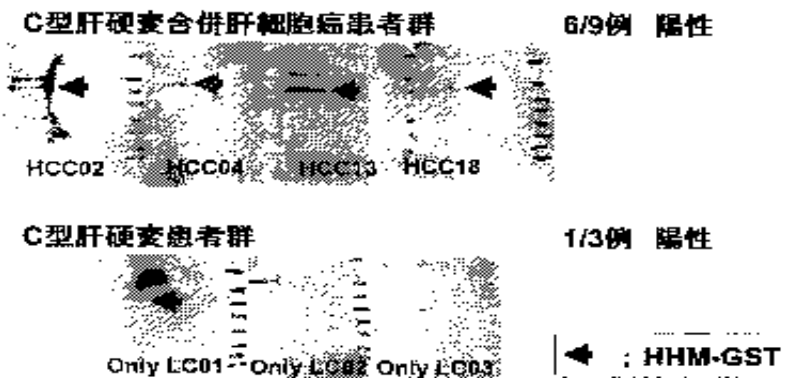


C型肝炎硬変合併肝細胞癌患者群とC型肝炎硬
変患者群との間で、抗HHM IgG抗体の陽
性率を検査した。血清中の抗HHM IgG抗体
の陽性率は、C型肝炎硬変合併肝細胞癌患者
群は9例中6例が陽性という高い値を示し、
肝癌もマーカーになる。
なお、C型肝炎硬変患者群では3例中1例という
低い値であった。

研究概要・アピールポイント

血清中の抗HHM IgG抗体は濃度測定で、肝癌のスクリーニング及び進行度の
マーカーとして利用可能。

抗HHM IgG抗体 陽性率



GST:今回用いた標識蛋白

C型肝炎硬変合併肝細胞癌患者群で(血清中)抗HHM IgG抗体が高率に存在する。

◆ お問合せ先 ◆

有限会社山口ティー・エル・オー TEL: 0836-22-9768 E-mail:tlojim@yamaguchi-u.ac.jp